

文部科学省委託調査

**子どもの生活習慣づくりに関する家庭や企業の認識度
及び課題分析調査**

報告書（概要）

平成22年度

株式会社三菱総合研究所

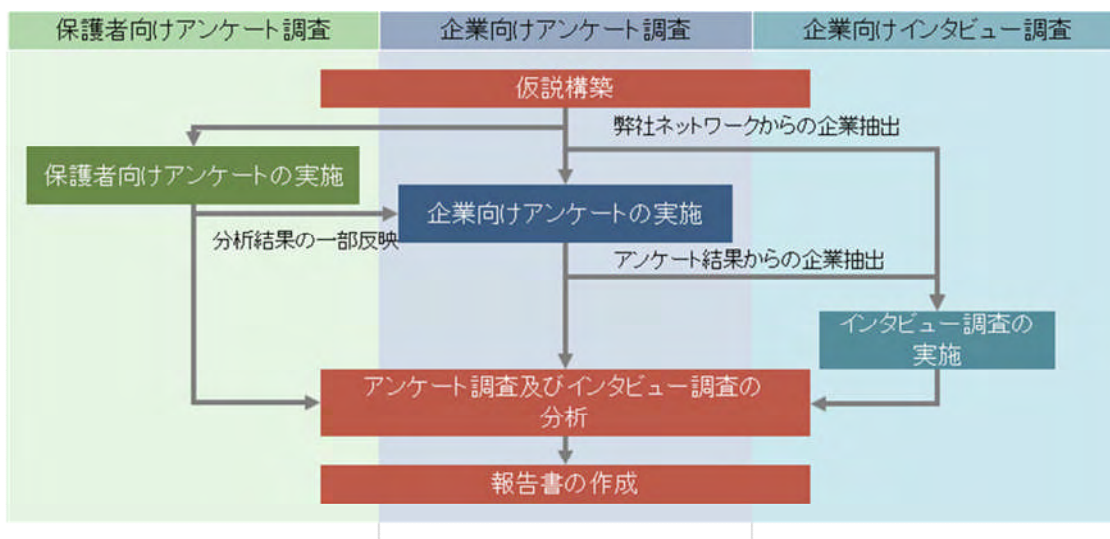
概要

1. 調査の構成と仮説

(1) 調査の構成

本調査は、保護者アンケート調査、企業アンケート調査、企業インタビュー調査の3つの調査から構成されている。本資料はそのうちの、保護者向けアンケート調査と企業向けアンケート調査の結果から、主要な部分を取り出して紹介するものである。

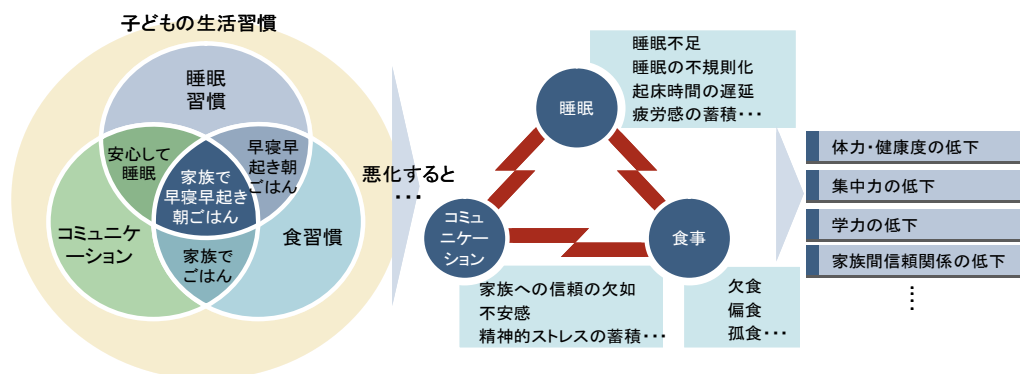
図表概 1-1 調査の全体構成



(2) 調査仮説

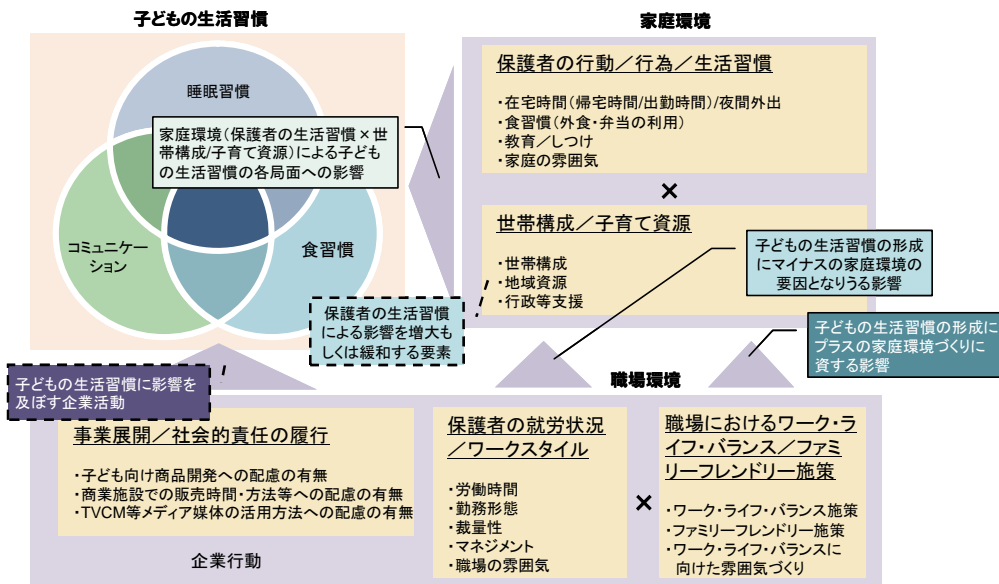
調査を実施するに際して、「子どもの生活習慣」は大まかに、「睡眠習慣」、「食習慣」、「保護者とのコミュニケーション」の3つの要素による影響から形成されると考えた。

図表概 1-2 子どもの生活習慣整理イメージ



さらに、子どもの生活習慣の形成には、家庭環境と社会・経済的環境（企業活動）が直接的には作用すると考えた。また、家庭環境は保護者の職場環境（雇用形態、勤務先企業の業種や業務形態等、企業が実施する施策や雰囲気等）の影響を受けると考えた。

図表概 1-3 生活習慣形成への環境影響仮説



企業活動が子どもの生活習慣に及ぼす経路は①「保護者の職場環境を通じて家庭環境経由で影響を与える場合」と②「企業の行動（社会・経済活動）そのものが直接子どもの生活習慣に影響を与える場合」の2通りが考えられる。この2つの経路は、子どもの年齢によって影響度が異なると考えられる。

以下では、こうした仮説に基づいて実施した「保護者アンケート調査」および「企業アンケート調査」の主要な結果について報告する。